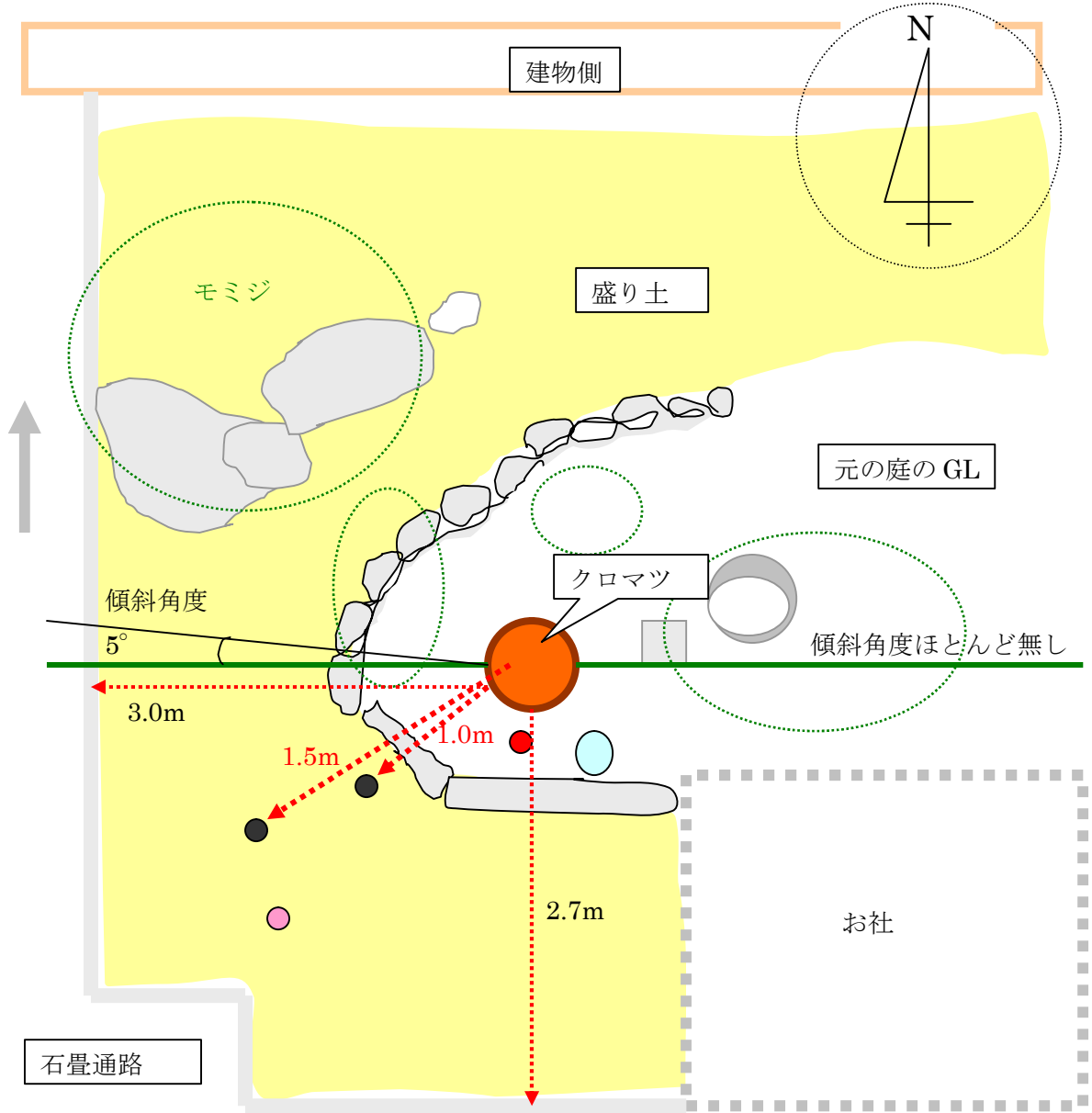







土壌調査範囲イメージ図

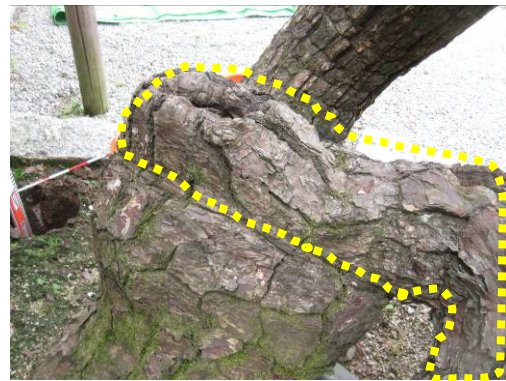


-  透水性確認、pH・EC 検査サンプル採取
-  土壌硬度検査（長谷川式土壌硬度計）
-  土層確認 深さ 75cm（検土杖）
-  砂利等覆土の範囲
-  砂利サンプル採取ポイント

2) その他の調査結果

① 幹根元の状況

打音検査の結果、点線部分は枯損しています。現時点では枯損部は著しく腐朽していませんが、徐々に腐朽が進むと主幹の強度に影響が出てくる可能性があります。全体の形状からも倒木回避のために支柱は必要です。設置した支柱の腐朽、劣化に注意して下さい。一度支柱をするとマツは支柱に頼っていますので取り外すことが難しくなります。



② 支柱の状況



上下方向の力には有効ですが。左右方向には効果がないので、根元の状況を観察しながら、腐朽が進むようであれば支柱の形状変更をする必要があります。

③ 全体排水性の状況

マツに向かって西方向から東方向に 5° 傾斜しており、北から南方向にもそれ以上傾斜、マツから南方向、東方向は傾斜がほとんどない。

